

コロンビア政治情勢（2024年9月）

1 概要

【内政】

- （１）トラック業界団体によるストライキ
- （２）ペトロ大統領、イスラエルの諜報用ソフトウェア購入を非難
- （３）セグンダ・マルケタリアとの和平交渉
- （４）ペトロ大統領、クーデター疑惑を主張
- （５）議会の動き
- （６）与党派「歴史同盟」全国大会の開催
- （７）ELN との和平交渉中断
- （８）政府支持大規模デモの実施

【外交】

- （１）ベネズエラ情勢に対するコロンビア政府の対応
- （２）コロンビア、アンデス共同体の議長国に就任
- （３）ムリージョ外務大臣の英国訪問
- （４）ペトロ大統領、国連総会に参加
- （５）レバノンから在留コロンビア人の輸送
- （６）ペトロ大統領、新大統領就任式出席のためメキシコを訪問

2 本文

【内政】

- （１）トラック業界団体によるストライキ

1日から5日、ディーゼル燃料への補助金削減に反対するトラック輸送業者団体による抗議ストが全国レベルで行われ、食料品や医薬品の供給やスクールバス等の通行等が妨げられるなど市民生活に影響が及んだ。5日、同団体は運輸省と補助金削減を抑制することで合意に達しストは解除された。

- （２）ペトロ大統領、イスラエルの諜報用ソフトウェア購入を非難

4日、ペトロ大統領は、国交を断絶したイスラエルから前政権が1100万ドルで購入した諜報用ソフトウェア「ペガサス」が選挙運動の傍受に使用された可能性があると述べた上で、関連の調査を求める発言を行った。

- （３）セグンダ・マルケタリアとの和平交渉

セグンダ・マルケタリアとの第2回和平交渉に向けた事前協議が難航する中、同グループは米国から身柄の引き渡しを求められているイバン・マルケスに対する逮捕状取下げを交渉条件としている旨の報道がなされた。その後、10月第3週にキューバのハバナで第2回交渉が行われることが発表された。

(4) ペトロ大統領、クーデター疑惑を主張

10日、ペトロ大統領は、自身の命を狙う、もしくは自身を大統領の座から追放するクーデター計画が存在すると述べた。また、国家選挙評議会（CNE）が進める大統領選挙キャンペーン不正資金疑惑捜査を通じ、ペトロ大統領をその職から追放してエフライン・セペダ上院議長を同職に就任させることを狙う勢力が存在すると述べた。

(5) 議会の動き

ア 2025年度予算案

10日、財務省は2025年度予算案を議会に提出したが、翌11日から24日まで行われた委員会審議の結果、同予算案が否決されることとなった。これを受け、政府は、憲法規定に則り、10月20日以降に政令を通じ来年度予算案を發布すると発表した。

イ 医療改革法案

13日、政府は前会期で廃案となった医療保険改革法案について、新たに48条を追加する形で議会へ再提出した。その後、19人の元保健大臣が政府に書簡を送り、同法案に含まれる提案の多くがコロンビア人に対する医療対応にリスクをもたらす可能性が高いと主張した。

ウ 政治・選挙改革法案

24日、政府は議会に政治・選挙改革法案を提出した。この法案には、選挙法の改正や国家選挙審議会の判事選出方法変更、政党助成制度の拡充を通じた政治資金透明化、政党法人格付与基準の緩和といった内容が含まれている。

(6) 与党会派「歴史同盟」全国大会の開催

14日及び15日、与党会派「歴史同盟」は全国大会を開催し、政府に対し社会プログラムの拡充や寡頭支配層に対する急進的な闘争の展開を要求する決議を採択した。また、政府が主導する年金改革等の社会改革を支持するための街頭動員を強化する方針を表明した。

(7) ELN との和平交渉中断

17日、ELN はアラウカ州の国軍基地を攻撃し、軍人のうち2人が死亡、25人が負傷した。これを受け、ペトロ大統領は同グループとの和平交渉プロセスは事実上終了したと述べた。これに対し、30日、国連安保理はELN との和平プロセスの再開を求める立場を表明した。

（８）政府支持大規模デモの実施

１９日、ペトロ大統領自身の呼びかけにより、国内各地で政府支持のための大規模デモが行われた。デモの最後にペトロ大統領が演説し、憲法裁判所で違憲審査が行われている年金改革法の擁護を訴えた他、自身に対するクーデター計画について言及しつつ、支持者に対し継続的な街頭活動と呼びかけた。

【外交】

（１）ベネズエラ情勢に対するコロンビア政府の対応

３日、コロンビア及びブラジル政府は、ベネズエラ司法当局がエドムンド・ゴンサレス野党大統領候補に対し、職務篡奪などの容疑で逮捕状を発行したことに深い懸念を表明する共同声明を発した。また、９日、コロンビア外務省は X を通じ、ゴンサレス氏のスペイン亡命に対する遺憾の意を表明した。

（２）コロンビア、アンデス共同体の議長国に就任

９日、コロンビアのアンデス共同体（CAN）議長国就任式典が開催された。同式典には、ボリビア、エクアドル、ペルー、コロンビアの外務・通商大臣が出席し、地域統合の強化に向けたコミットメントが再確認された。

（３）ムリージョ外務大臣の英国訪問

１６日及び１７日、ムリージョ外務大臣は英国を訪問し、デービッド・ラミー英外務・英連邦・開発大臣と外相会談を行った。同会談では、１１月にペトロ大統領とスターマー英首相が二国間会談を行うことや、生物多様性条約 COP16 を通じた協力等が確認された。

（４）ペトロ大統領、国連総会に参加

２０日から２５日、ペトロ大統領は国連総会等参加のため米国を訪問した。２４日、ペトロ大統領は国連総会一般討論演説を行い、気候変動対策やエネルギー移行の重要性の他紛争の終結を訴えると共に、グローバル寡頭政治に対する批判を展開した。その他、ペトロ大統領はショルツ独首相、グテーレス国連事務総長、アッバース・パレスチナ大統領、ムリーノ・パナマ大統領等と会談を行った。

（５）レバノンから在留コロンビア人の輸送

２８日、イスラエルの攻撃に伴うレバノン情勢の悪化を受け、約５０人の未成年者を含む１００人以上のコロンビア人を輸送するための人道的フライトがボゴタへ到着した。なお、コロンビアは同フライトを通じレバノンに対する援助物資を届けた。

(6) ペトロ大統領、新大統領就任式出席のためメキシコを訪問

30日、ペトロ大統領はメキシコを訪問し、ロペス＝オブラドル墨大統領主催の送別晩餐会に出席した。その後、シェインバウム次期墨大統領と非公開の会談を行い、コロンビアにおける鉄道建設におけるメキシコの支援継続等について協議を行った。また、翌10月1日にはシェインバウム新大統領の就任式に参加した。

(了)